

## 第2章

---

# 本県の医療を 取り巻く環境



## 第1節 人口の動向

### 1 総人口

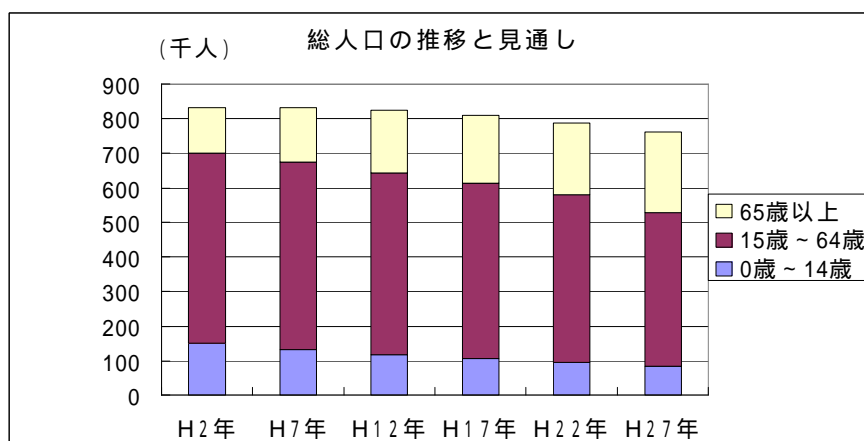
本県の総人口は、昭和62年頃（約83万6千人）から減少傾向が現れ、平成17年では約81万人となっています。今後の総人口の見通しについては、国立社会保障・人口問題研究所が平成17年の国勢調査を基に調査した推計人口によれば、平成22年には78万8,000人、平成27年には76万2,000人と見込まれています。

保健医療計画の策定に当たっては、国レベルとの整合性を図ること等の観点から、国立社会保障・人口問題研究所の推計人口をベースに個々の施策を計画していくものとします。

年齢3区分別人口の推移と見通し

(単位:千人)

区分	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年
0歳～14歳	150	132	117	106	96	85
15歳～64歳	551	542	526	507	483	444
65歳以上	130	157	181	197	209	232
総計	831	831	824	810	788	762



### 2 人口構成

本県の人口の年齢別構成は、0～14歳、15～64歳の構成比が減少しており、平成17年には、それぞれ13.1%、62.6%となっています。一方、65歳以上の高齢者の割合は全国を上回る速度で増加しており、昭和45年の9.6%から平成17年には24.4%（全国平均は20.2%）にまで上昇し、全国順位で8番目に高くなっています。

今後、0～14歳人口及び15～64歳人口が減少する一方、65歳以上人口は今後も増加し、平成27年(西暦2015年)には、23万2,000人、構成比で約3割になると見込まれており、高齢化がさらに進むこととなります。

年齢3区分別人口の推移と見通し

(単位:千人(%))

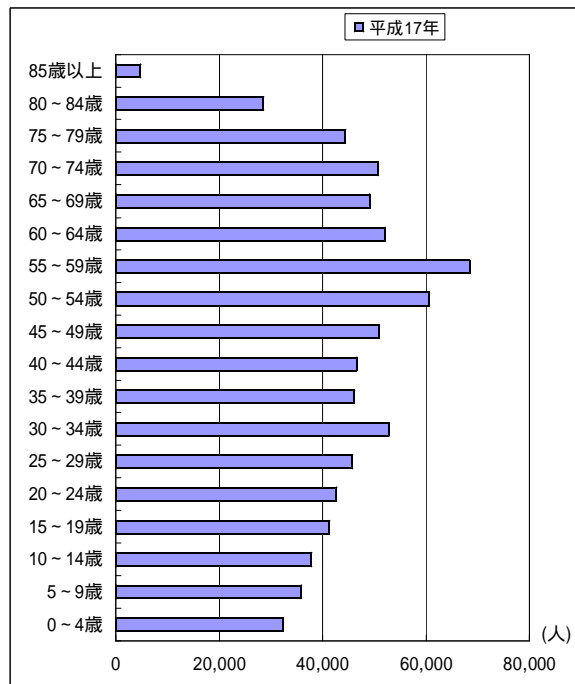
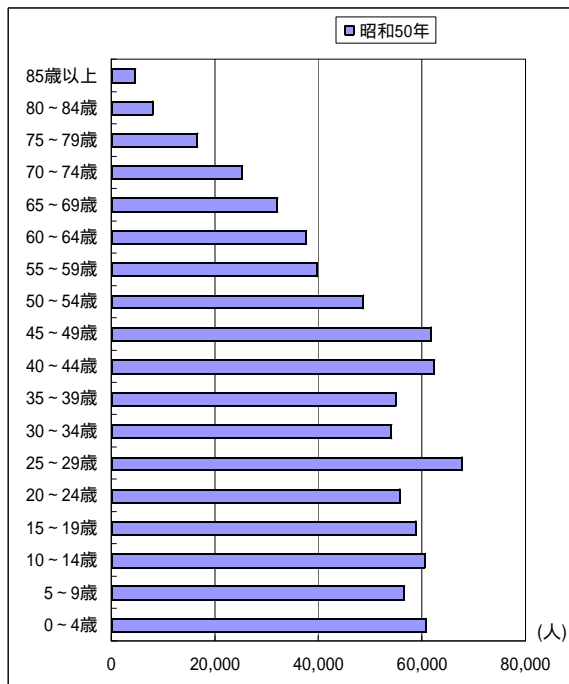
区分		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総人口	全国	123,611	125,570	126,926	127,768	127,176	125,430
		(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
	徳島県	832	832	824	810	788	762
		(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
0歳～14歳	全国	22,544	20,014	18,472	17,585	16,479	14,841
		(18.2)	(15.9)	(14.6)	(13.8)	(13.0)	(11.8)
	徳島県	150	132	117	106	96	85
		(18.0)	(15.9)	(14.2)	(13.1)	(12.2)	(11.2)
15歳～64歳	全国	86,140	87,165	86,220	84,422	81,285	76,807
		(69.7)	(69.4)	(67.9)	(66.1)	(63.9)	(61.2)
	徳島県	551	542	526	507	483	444
		(66.3)	(65.1)	(63.8)	(62.6)	(61.3)	(58.3)
65歳以上	全国	14,928	18,261	22,005	25,761	29,412	33,781
		(12.1)	(14.5)	(17.3)	(20.2)	(23.1)	(26.9)
	徳島県	130	157	181	197	209	232
		(15.5)	(18.9)	(21.9)	(24.4)	(26.6)	(30.5)
老年人口割合の全国順位		9	9	8	8		

資料:国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所の推計人口による。

(注1) 総人口には、年齢不詳を含む。

(注2) 推計人口については、端数処理の都合上、総人口とは一致しない。

徳島県の人口構造の変化(昭和50年～平成17年)



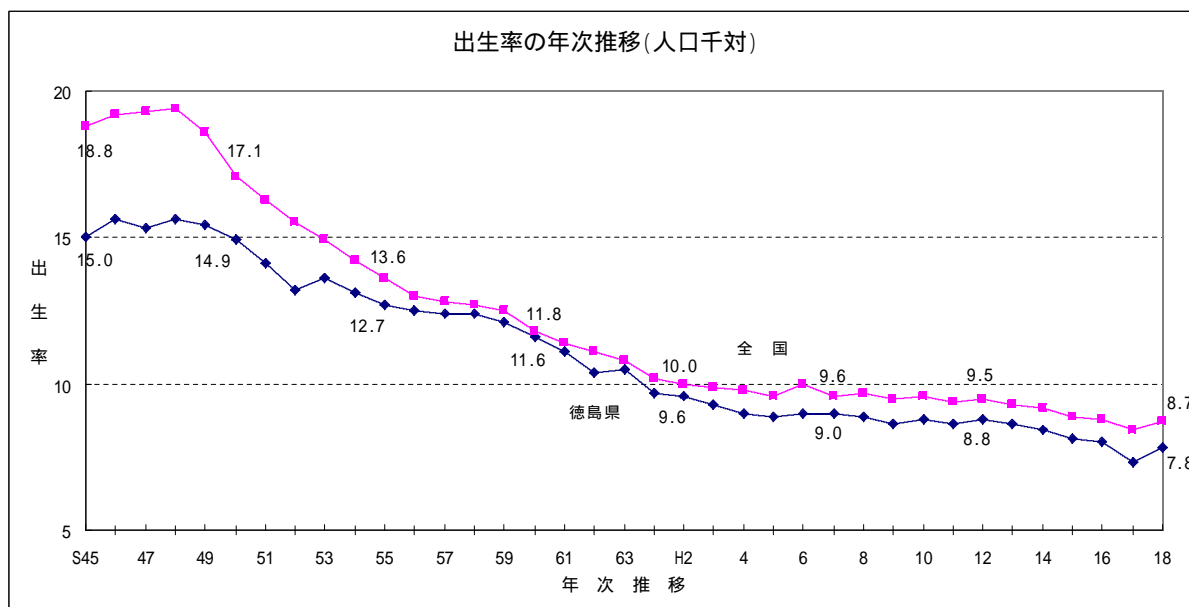
### 3 人口動態

#### (1) 出生率

本県の出生率は昭和48年の15.6（人口千対）をピークにして、その後、下降傾向にあり、平成17年には、7.3と戦後最低の値となりましたが、平成18年には7.8と若干回復しています。

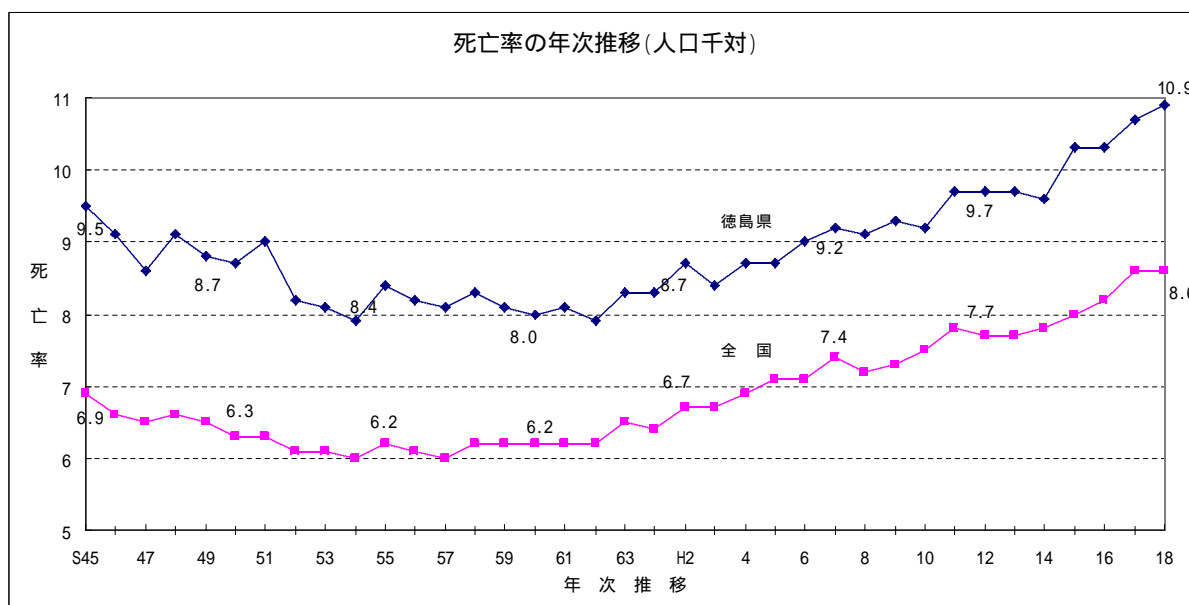
全国もほぼ同様の傾向にありますが、本県の値は全国値よりさらに若干低い値で推移しています。全国平均は8.7で、本県の順位は全国で42位と低位となっています。

このような出生率の低下は全国的に問題とされています。この原因としては出産適齢女子人口の減少、晩婚化、価値観の多様化等が考えられます。



#### (2) 死亡率

本県の死亡率は、8から9前後（人口千対）で推移していましたが、平成15年には、10を超え、平成18年には10.9で、全国平均の8.6よりかなり高く、全国で6番目となっています。本県の死亡率が高い原因は様々考えられますが、年齢構成が全国平均より高齢化していることが大きく影響していると思われます。



年齢構成で大きく影響を受ける死亡率を補正するため、年齢調整死亡率でその推移を見ますと、死亡状況は年々改善されてきているものの、男女とも概ね全国平均を少し上回る状況で推移しています。特に平成2年は、全国で男性7位、女性で4位と著しく高かったが、平成17年では、男性全国18位、女性13位と、男女とも全国平均より若干高い状況にあります。

年齢調整死亡率の推移

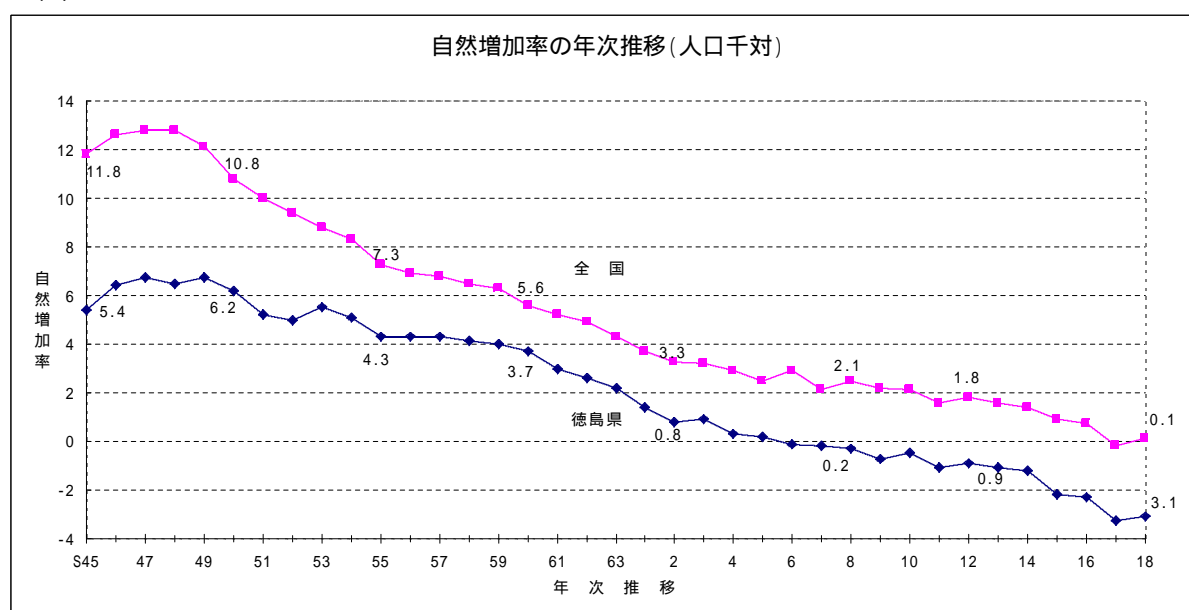
(人口10万対)

区分		昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成18年
徳島県	男	1070.4	987.6	859.9	782.9	727.1	647.4	608.8	-
	女	754.9	623.4	469.2	443.1	381.0	337.2	304.5	-
全国	男	1036.5	923.5	812.9	747.9	719.6	634.2	539.2	571.3
	女	685.1	579.8	482.9	423.0	384.7	323.9	298.6	289.8

(注) 都道府県別の年齢調整死亡率は、5年毎に公表になる。

資料:人口動態調査

### (3) 自然増加率



出生数から死亡数を引いた自然増加数を人口千対で示した値が自然増加率です。本県の自然増加率は全国より低い値で次第に低下しており、平成18年には 3.1と自然減の状況となっています。出生数が減少する一方、高齢者が増えてきたことにより死亡数が増加したことが自然増加率の低下を招いていると考えられます。

自然増加率は市部とその周辺部が比較的高い値を示しています。逆に、自然増加率の低い地域は、特に山間部に集中しています。人口の社会減に加えて自然減により、一層の過疎化が進行しています。

### (4) 乳児死亡率、新生児死亡率及び周産期死亡率

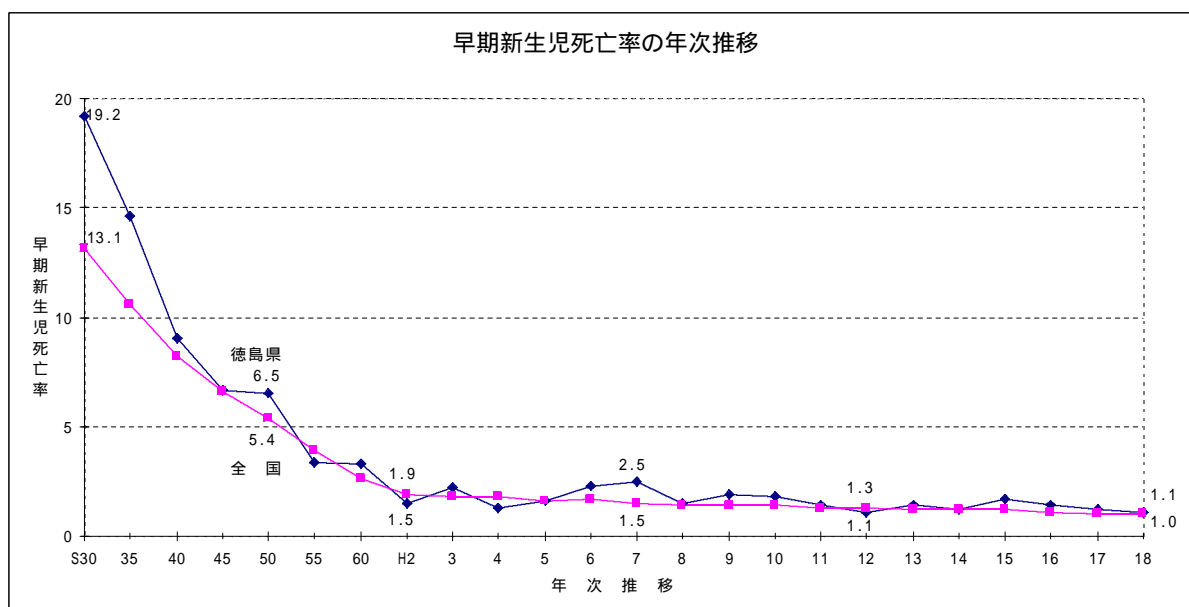
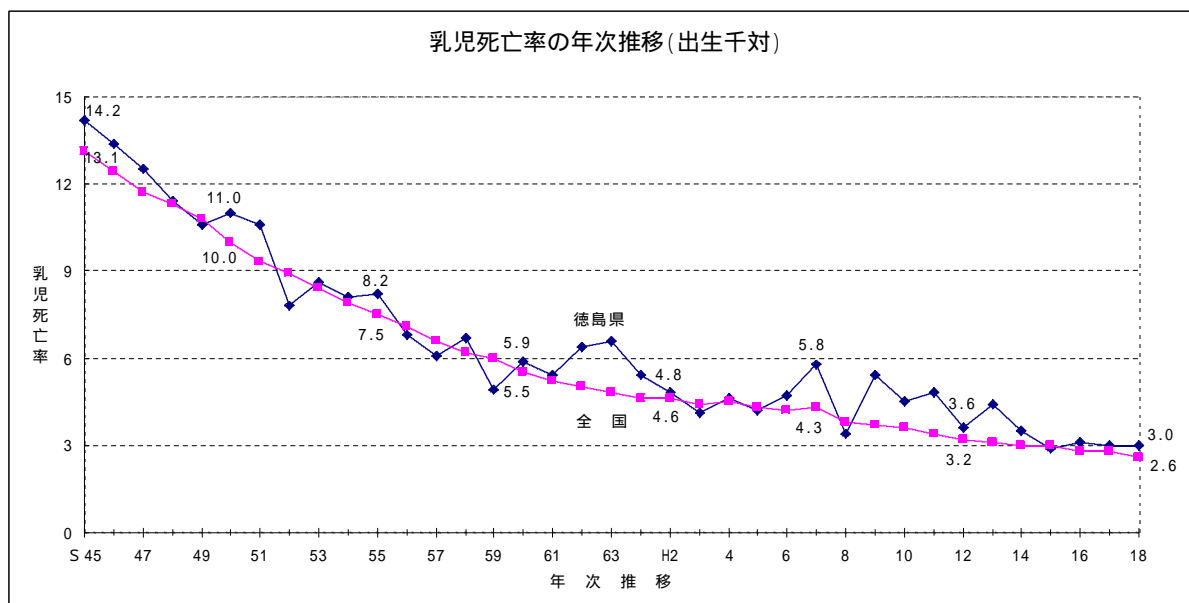
全国と同様、本県でも母子保健指標は戦後急速に改善され、年により多少の増減はあるものの、低下傾向を示しています。

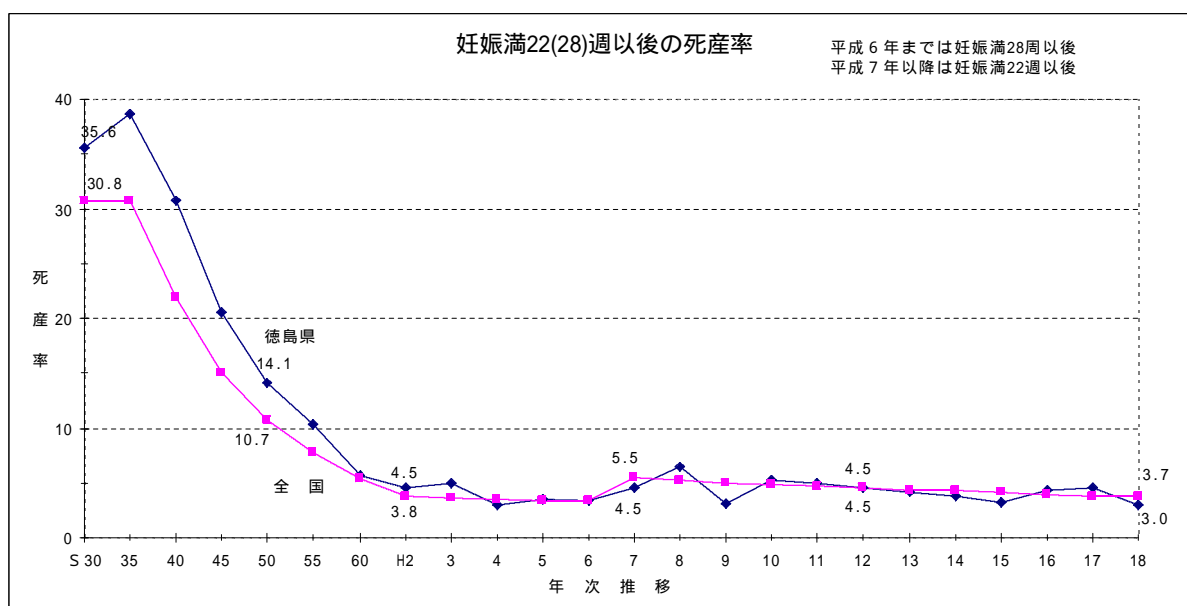
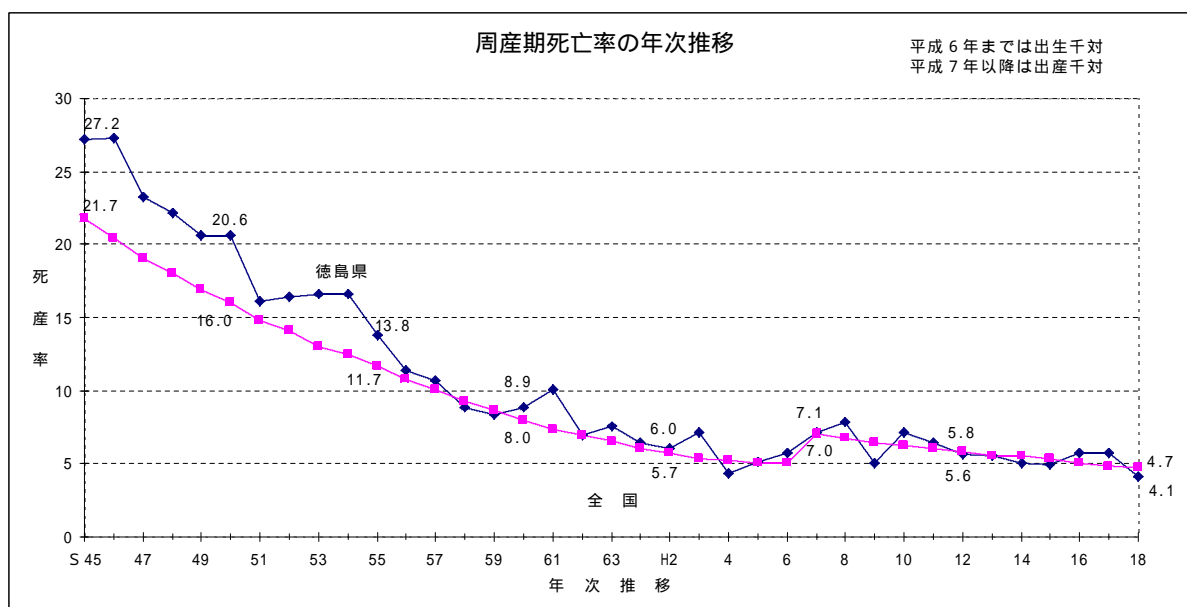
まず生後1年未満の死亡を示す乳児死亡率は、平成18年には3.0(出生千対)で、全国平均の2.6に比べ高く、全国で5位と高い数字になっています。

生後1週未満の死亡を示す早期新生児死亡率は、1.1(出生千対)で、全国平均の1.0に比べると若干高く、全国で15位となっています。

また、妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の死亡を合わせた周産期死亡率については、4.1（出産千対）で、全国平均の4.7より低く、全国で32番目となっています。

妊娠満22週以後の死産率については、3.0（出産千対）で、全国平均の3.7より低く、全国で41番目となっています。





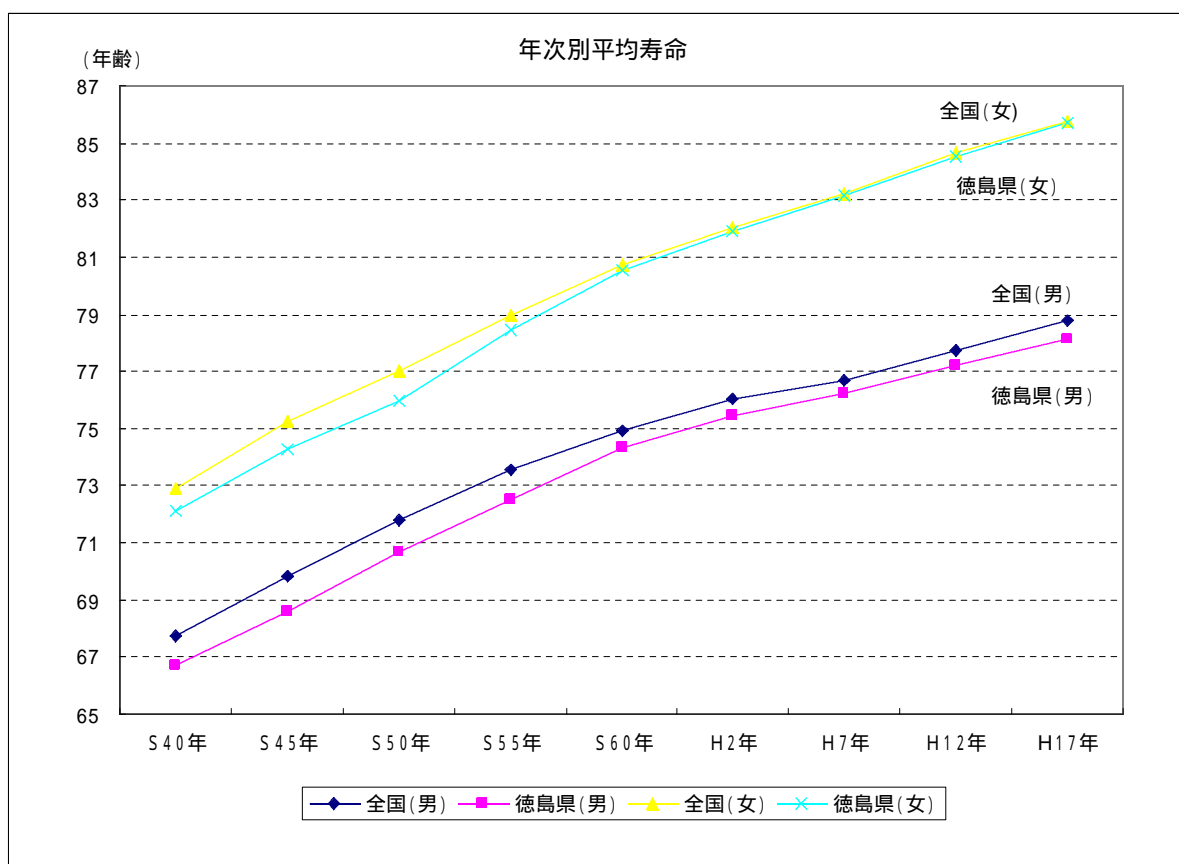
## (5) 平均寿命

年次別平均寿命

	S 40年	S 45年	S 50年	S 55年	S 60年	H 2年	H 7年	H 12年	H 17年
全国(男)	67.74	69.84	71.79	73.57	74.95	76.04	76.70	77.71	78.79
徳島県(男)	66.69	68.56	70.71	72.54	74.35	75.47	76.21	77.19	78.09
全国(女)	72.92	75.23	77.01	79.00	80.75	82.07	83.22	84.62	85.75
徳島県(女)	72.14	74.30	76.00	78.48	80.56	81.93	83.17	84.49	85.67

資料 徳島県保健・統計年報





全国と同様、本県でも平均寿命は、男女とも昭和40年に比べ、平成17年には10歳以上長くなっています。

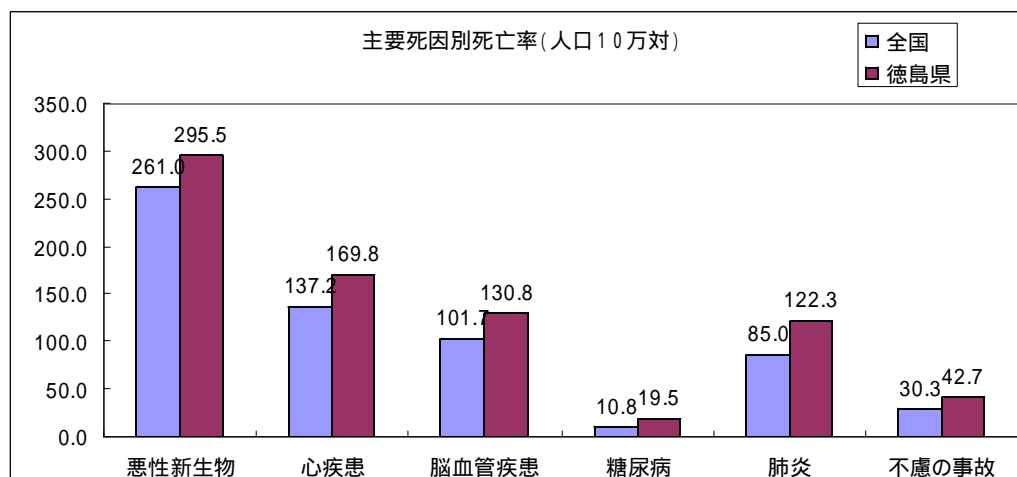
徳島県における男性の平均寿命については、昭和40年には、66.69歳であり、全国で38位でしたが、平成17年には78.09歳となり、全国で38位となっています。

徳島県における女性の平均寿命について、昭和40年には、72.14歳であり、全国で男性と同様に38位でしたが、平成17年には85.67歳となり、全国で30位となっています。

## 第2節 疾病の動向

### 1 死因

死因別に死亡率をみると、全国と同様、悪性新生物で死亡する人が増加傾向にあり、心疾患、脳血管疾患の3大死因で総死亡数の54.7%（平成18年）を占めています。



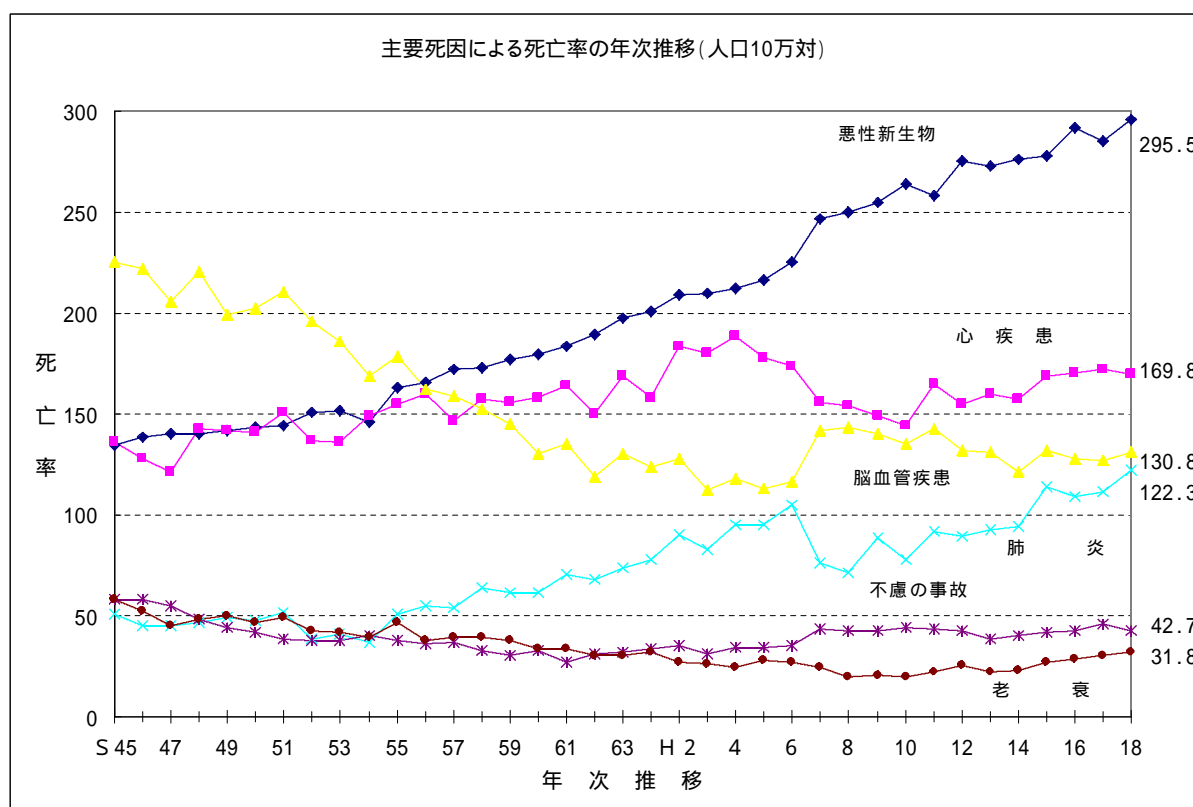
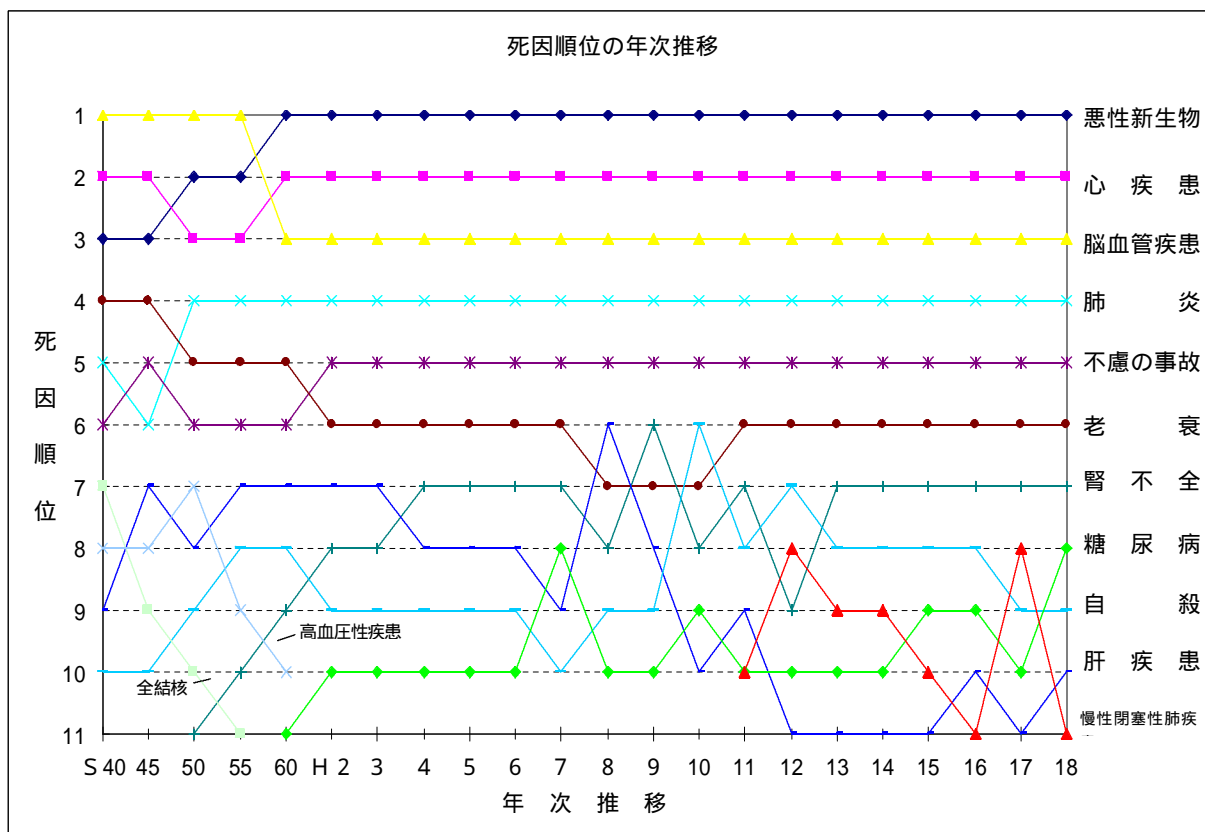
10大死因による死亡者数及び死亡率

平成18年

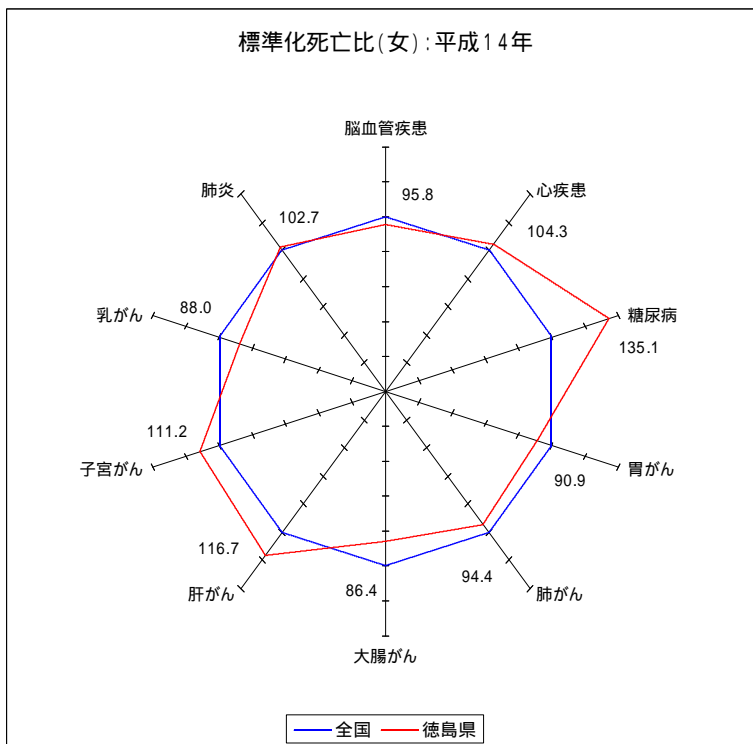
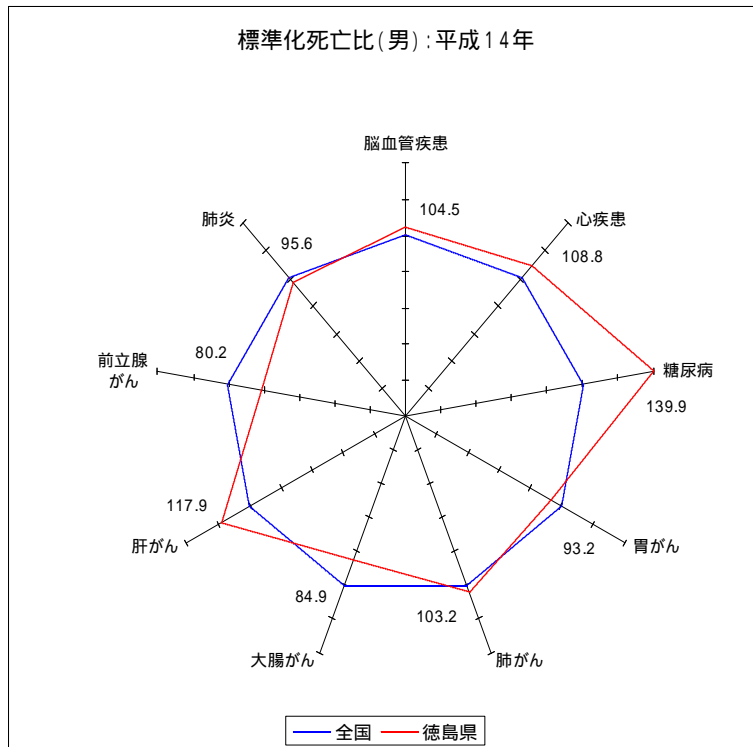
死 因	徳島県				全国		
	死亡者数	占有率	死亡率	全国順位	死亡者数	死亡率	死因順位
総死亡者数	8,721	100.0	1,088.8	6	1,084,450	859.6	-
1 悪性新生物	2,367	27.1	295.5	12	329,314	261.0	1
2 心疾患	1,360	15.6	169.8	12	173,024	137.2	2
3 脳血管疾患	1,048	12.0	130.8	12	128,268	101.7	3
4 肺炎	980	11.2	122.3	5	107,242	85.0	4
5 不慮の事故	342	3.9	42.7	5	38,270	30.3	5
6 老衰	255	2.9	31.8	13	27,764	22.0	7
7 腎不全	189	2.2	23.6	7	21,158	16.8	8
8 糖尿病	156	1.8	19.5	1	13,650	10.8	11
9 自殺	152	1.7	19.0	46	29,921	23.7	6
10 肝疾患	143	1.6	17.9	1	16,267	12.9	9

注：死亡率は人口10万対

本県の死因別死亡率の全国における状況（平成18年）をみると、10大死因の中で、9つの死因が全国平均より高くなっており、特に糖尿病、肝疾患は全国で1番高くなっています。



死因の順位は、昭和58年以降、1位悪性新生物、2位心疾患、3位脳血管疾患という順位が定着しています。



男

	脳血管疾患	心疾患	糖尿病	胃がん	肺がん	大腸がん	肝がん	前立腺がん	肺炎
順位	14	5	1	33	17	42	10	46	30
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
徳島県	104.5	108.8	139.9	93.2	103.2	84.9	117.9	80.2	95.6

女

	脳血管疾患	心疾患	糖尿病	胃がん	肺がん	大腸がん	肝がん	子宮がん	乳がん	肺炎
順位	29	13	1	35	23	37	9	5	29	18
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
徳島県	95.8	104.3	135.1	90.9	94.4	86.4	116.7	111.2	88.0	102.7

年齢構成を補正した標準化死亡比（全国値が100となる）でみると、糖尿病については、男性139.9、女性135.1と著しく高くなっており、共に全国1位となっています。

男性では、肝がん117.9（全国10位）、心疾患（全国5位）、脳血管疾患（全国14位）などが全国平均を上回っています。逆に前立腺がん80.2（全国46位）、大腸がん84.9（全国42位）などは全国平均を下回っています。

女性では、肝がん116.7（全国9位）、子宮がん（全国5位）などが全国平均を上回っています。逆に乳がん88.0（全国29位）、胃がん90.9（全国35位）などが全国平均を下回っています。

## 2 受療状況

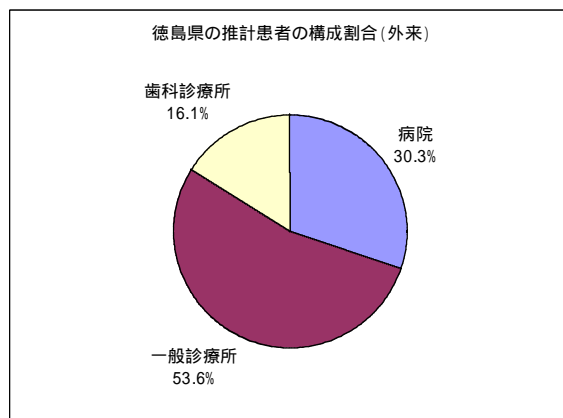
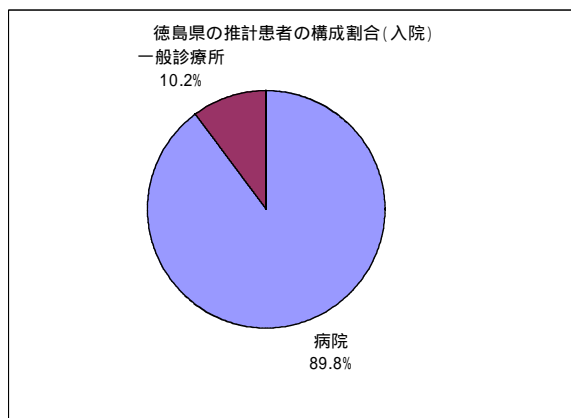
平成17年に行われた患者調査によると、徳島県内の推計患者数は入院患者が1万4,700人、外来患者が5万4,100人となっています。施設の種類の別構成割合をみると、入院患者の89.8%が病院で、外来患者の53.6%が診療所で受療しています。

徳島県の推計患者数、構成割合、受療率（施設の種類の別）

平成17年10月

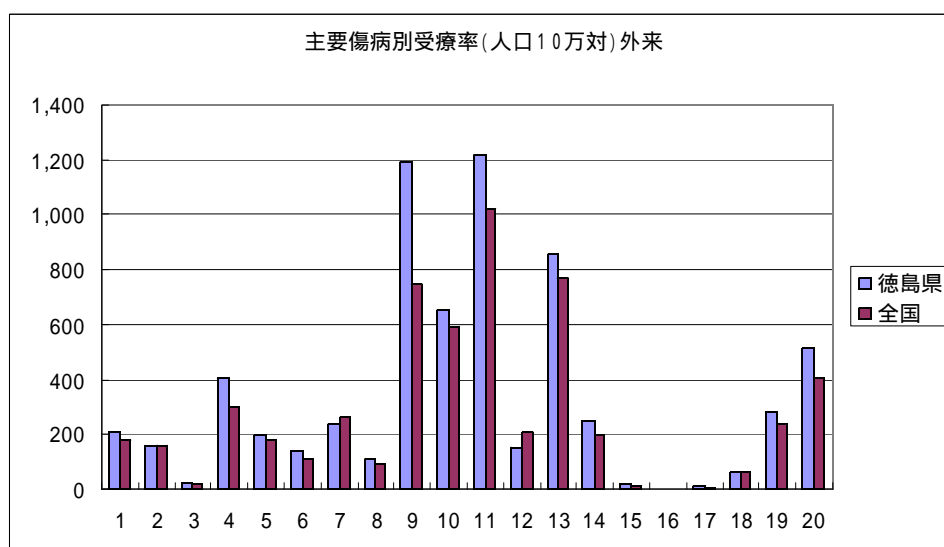
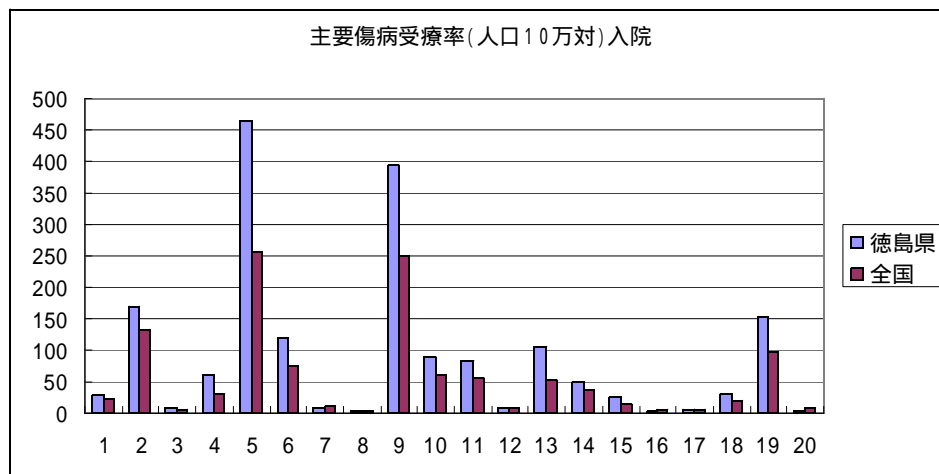
区分	推計患者数(千人)		構成割合		受療率(人口10万対)	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
総数	14.7	54.1	100.0%	100.0%	1,816	6,685
病院	13.2	16.4	89.8%	30.3%	1,635	2,027
一般診療所	1.5	29.0	10.2%	53.6%	181	3,579
歯科診療所		8.7		16.1%		1,079

資料：患者調査（厚生労働省）



入院患者の受療率（人口10万対）は、ほとんどの傷病において全国の値を上回っています。特に傷病大分類でいう精神及び行動の障害、循環器系の疾患においてその傾向が顕著となっています。

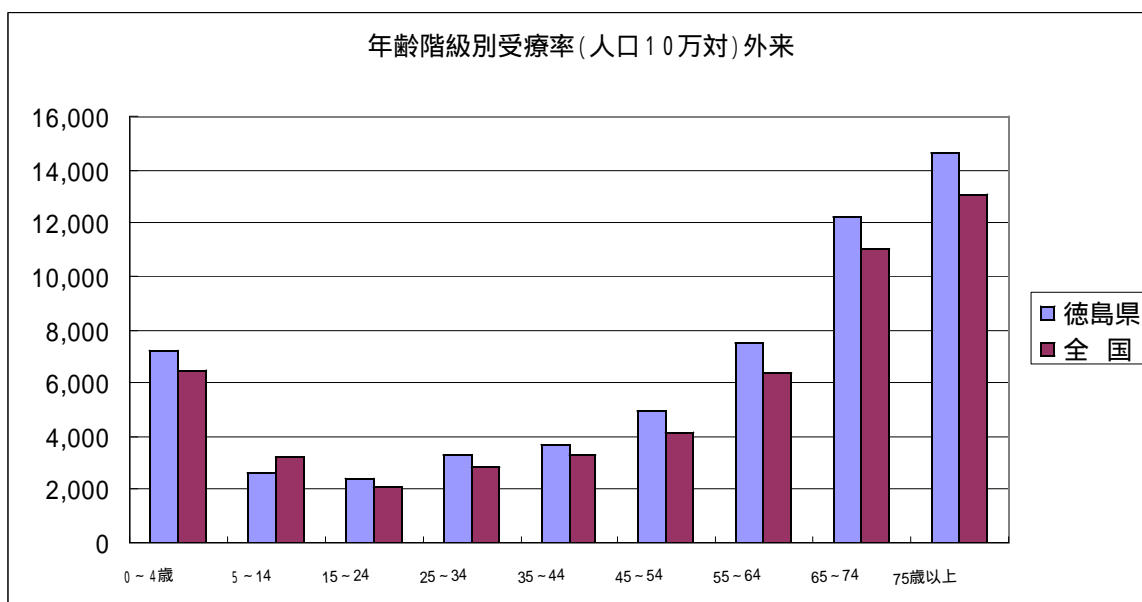
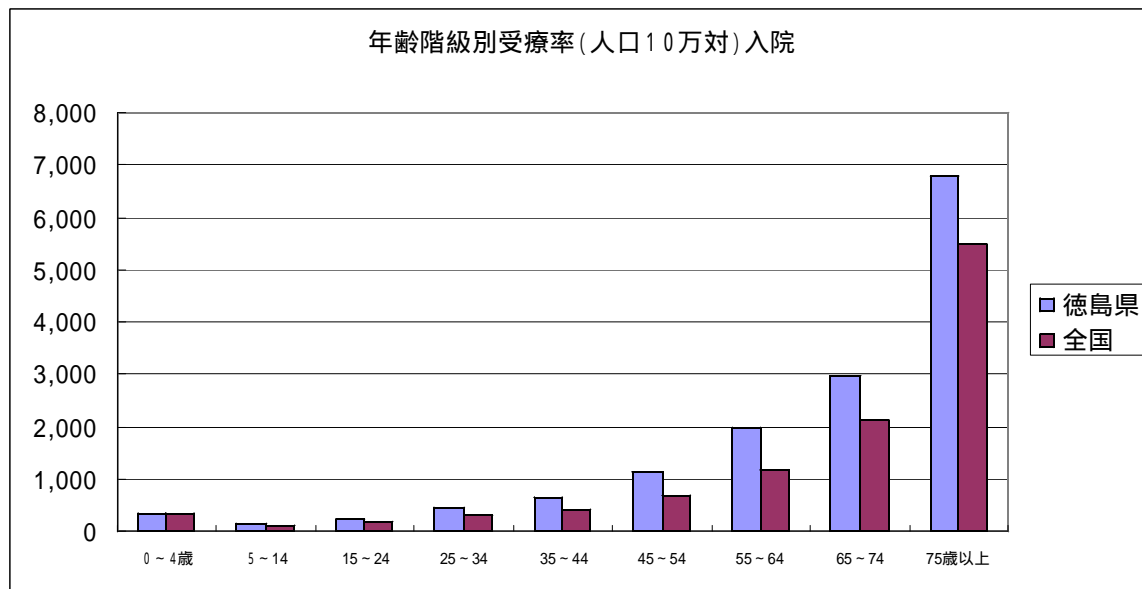
外来患者についても、ほとんどの傷病において全国よりも高い受療率となっており、全国と同様に循環器系、消化器系の疾患の受療率が高くなっています。



- |                        |                                    |
|------------------------|------------------------------------|
| 1 感染症及び寄生虫症            | 11 消化器系の疾患                         |
| 2 新生物                  | 12 皮膚及び皮下組織の疾患                     |
| 3 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害 | 13 筋骨格系及び結合組織の疾患                   |
| 4 内分泌、栄養及び代謝疾患         | 14 尿路性器系の疾患                        |
| 5 精神及び行動の障害            | 15 妊娠、分娩及び産じょく                     |
| 6 神経系の疾患               | 16 周産期に発生した病態                      |
| 7 眼及び付属器の疾患            | 17 先天奇形、変形及び染色体異常                  |
| 8 耳及び乳様突起の疾患           | 18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| 9 循環器系の疾患              | 19 損傷、中毒及びその他の外因の影響                |
| 10 呼吸器系の疾患             | 20 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用        |

年齢別に受療率をみると、まず、入院患者については、ほぼすべての年齢層において全国平均の受療率（以下「全国値」という。）を上回っています。特に45歳代以降の年齢層において全国値との差が大きくなっています。

外来患者についても、ほぼすべての年齢層において全国値を上回っています（5～14歳代のみが全国値を下回っています。）



### 第3節 保健医療施設の状況

#### 1 病院、診療所数の年次推移

本県の病院、診療所数を年次別にみると、病院数は、平成2年の141箇所をピークに減少しており、平成18年には122箇所となっています。一般診療所のうち、有床診療所は、平成5年の323箇所をピークに漸減しており、平成18年は189箇所となっています、無床診療所は、概ね増加傾向が続いており、平成18年は602箇所となっています。また、歯科診療所についても、増加傾向が続いており、平成18年は433箇所となっています。

医療施設数の年次推移

年 次	全 国			徳 島 県		
	病院	一般診療所	歯科診療所	病院	一般診療所	歯科診療所
昭和59年	9,574	78,332	43,926	124	674	254
昭和62年	9,841	79,134	48,300	134	694	297
平成2年	10,096	80,852	52,216	141	701	328
平成5年	9,844	84,128	55,906	137	715	365
平成8年	9,490	87,909	59,357	132	728	392
平成11年	9,286	91,500	62,484	134	779	404
平成14年	9,187	94,819	65,073	130	776	415
平成17年	9,026	97,442	66,732	123	783	427
平成18年	8,943	98,609	67,392	122	791	433
平成19年	-	-	-	121	789	430

資料：医療施設調査（厚生労働省）

（注）平成19年については、徳島県調査による。（平成19年3月31日現在）

一般診療所数の有床、無床別の年次推移

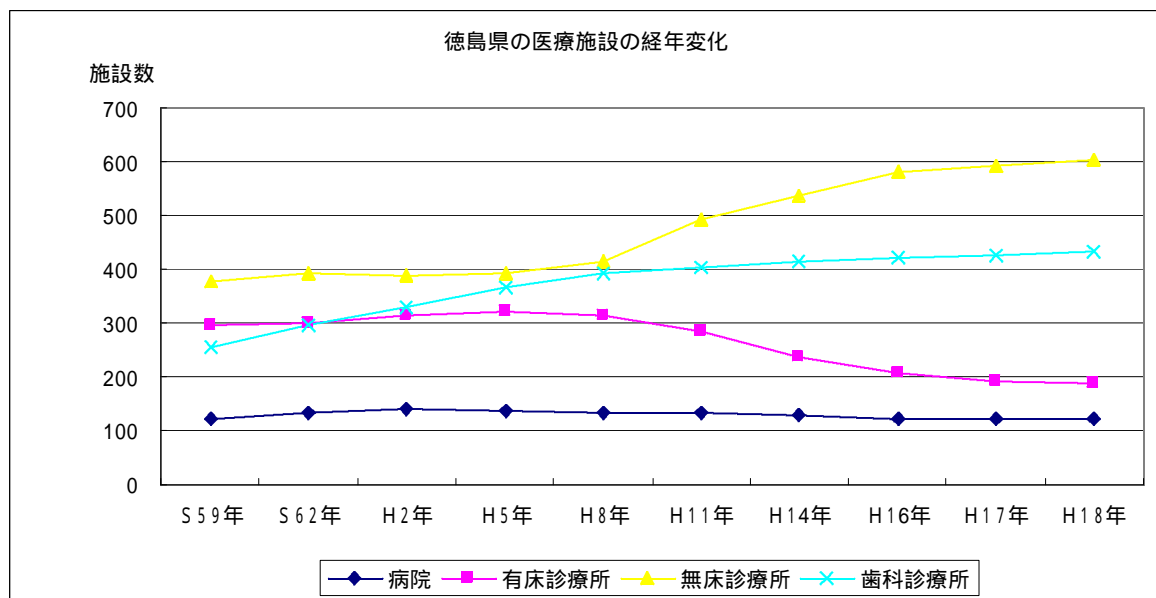
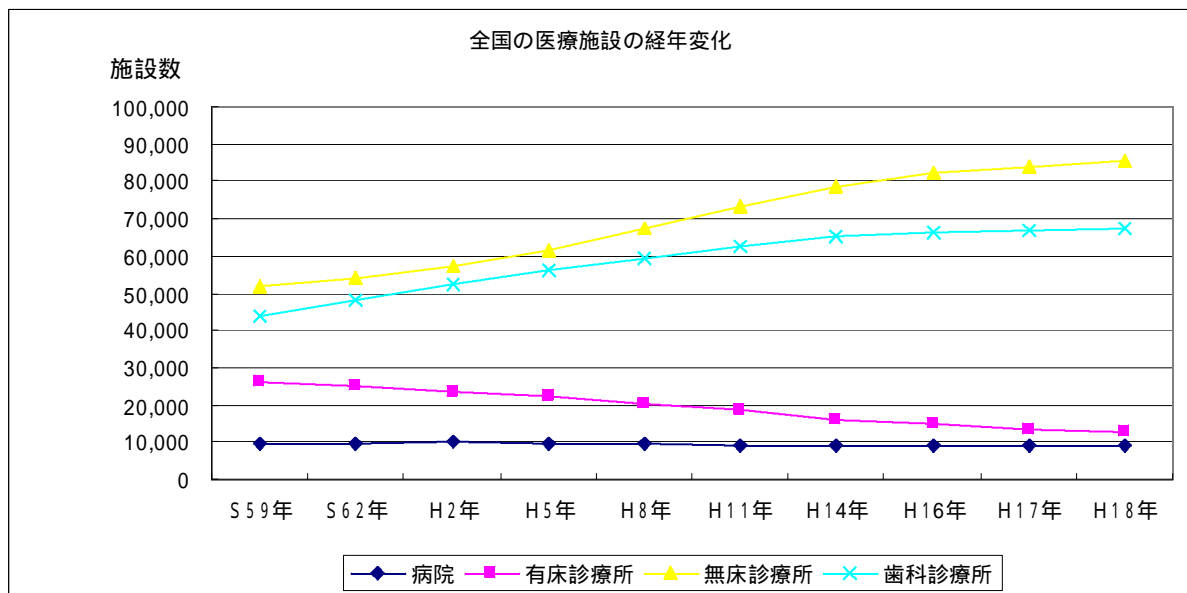
年 次	全 国		徳 島 県	
	有床診療所	無床診療所	有床診療所	無床診療所
昭和59年	26,459	51,873	295	379
昭和62年	24,975	54,159	301	393
平成2年	23,589	57,263	313	388
平成5年	22,383	61,745	323	392
平成8年	20,452	67,457	314	414
平成11年	18,487	73,013	285	494
平成14年	16,178	78,641	238	538
平成17年	13,477	83,965	192	591
平成18年	12,858	85,751	189	602
平成19年	-	-	185	604

資料：医療施設調査（厚生労働省）

（注）平成19年については、徳島県調査による。（平成19年3月31日現在）

この動向を全国的にみると、病院数は、平成2年の10,096箇所をピークに減少しています。一般診療所のうち、有床診療所は、減少が続いている一方、無床診療所は、増加傾向が続いています。歯科診療所については、昭和53年以降、増加傾向が続いており、本県の動向は全国の動向と同様の傾向にあります。





## 2 本県の医療施設の状況

本県は、病院、診療所ともその施設数も病床数も全国的に比較すると上位に位置しています。

本県の病院総数は、平成18年10月現在、122施設で、人口10万人当たり15.2と全国平均の7.0を大きく上回り、全国第3位(第1位は高知県17.7、第2位は鹿児島県15.9)となっています。

# 病 院 施 設 の 状 況

(平成18年10月1日現在)

区 分	病 院 施 設 数				人口10万人 対病院施設 数
		一般病院	精神科病院	結核療養所	
全 国	8,943	7,870	1,072	1	7.0
徳 島 県	122	106	16	0	15.2
東 部	73	62	11	0	12.7
東 部	8	8	0	0	8.0
南 部	16	15	1	0	11.9
南 部	5	4	1	0	19.5
西 部	11	10	1	0	25.8
西 部	9	7	2	0	18.1

資料：医療施設調査(厚生労働省)

本県の病院の病床数については、平成18年10月現在、総数15,506床で人口10万人当たり1926.2床と全国平均の1273.1床を大きく上回り全国第4位となっています(第1位は高知県、第2位は鹿児島県)。

そのうち、一般病床は6,463床で人口10万人当たり802.9床と全国平均の713.0床を上回り全国第22位となっています(第1位は大分県、第2位は岡山県、第3位は北海道)。

療養病床は、4,796床で人口10万人当たり595.8床と全国平均の274.1床を大きく上回り全国第3位となっています(第1位は高知県、第2位は山口県)。

また、精神病床は、4,130床で人口10万人当たり513.0床と全国平均の275.8床を大きく上回り全国第5位となっています(第1位は鹿児島県、第2位は長崎県、第3位は宮崎県)。

結核病床は、103床で人口10万人当たり12.8床と全国平均の8.7床を上回っています。

感染症病床は、現在では3病院14床(徳島大学病院6床、徳島県立海部病院4床、徳島県立三好病院4床)となっています。

なお、本県の病院の病床の特徴は次のとおりです。

一般病床は、県下全体でみれば基準病床数を大きく上回る病床がありますが、東部 保健医療圏に集中しており、南部、西部は過剰の度合いが低くなっています。

また、約30.9%の病床が療養病床となっていますが、南部 保健医療圏には、病院における同病床はありません。

精神病床についても、県下全体でみると基準病床数を大きく上回っています。

感染症病床は、感染症予防計画に基づき、県下を3圏域に分け、第二種感染症病床が県下で14床確保されています。

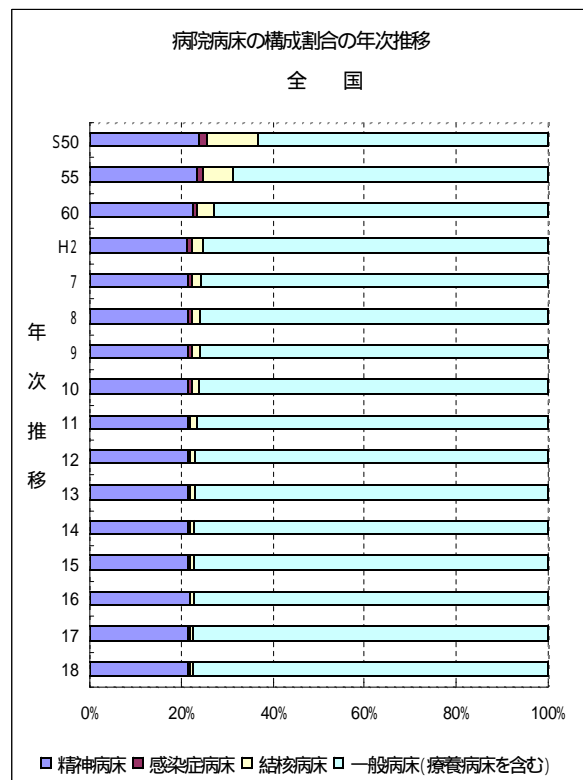
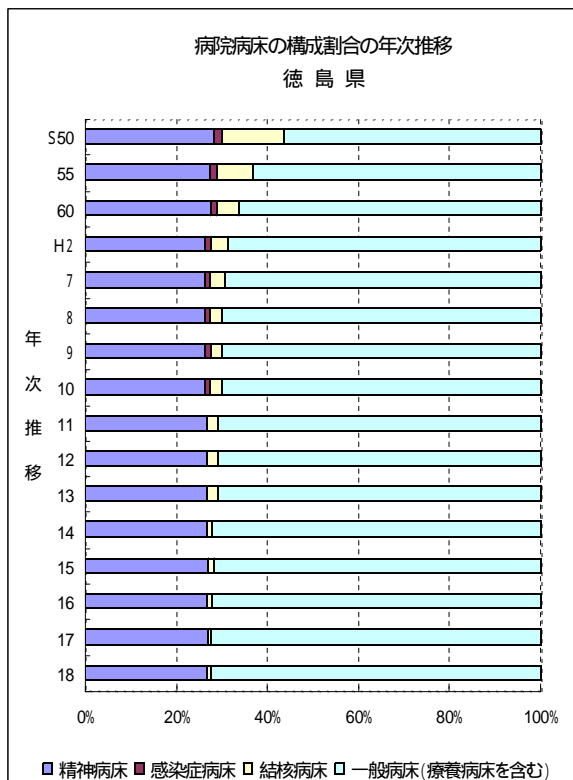
結核病床は、県下全体でみると基準病床数を上回る病床があります。

# 病院病床の状況

(平成18年10月1日現在)

区 分	病院病床数					
	合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
全 国	1,626,589	911,014	350,230	352,437	11,129	1,779
徳 島 県	15,506	6,463	4,796	4,130	103	14
東 部	9,760	3,382	3,267	3,031	74	6
東 部	1,284	804	480	0	0	0
南 部	1,996	1,350	502	139	5	0
南 部	379	227		144	4	4
西 部	1,006	342	188	476	0	0
西 部	1,081	358	359	340	20	4

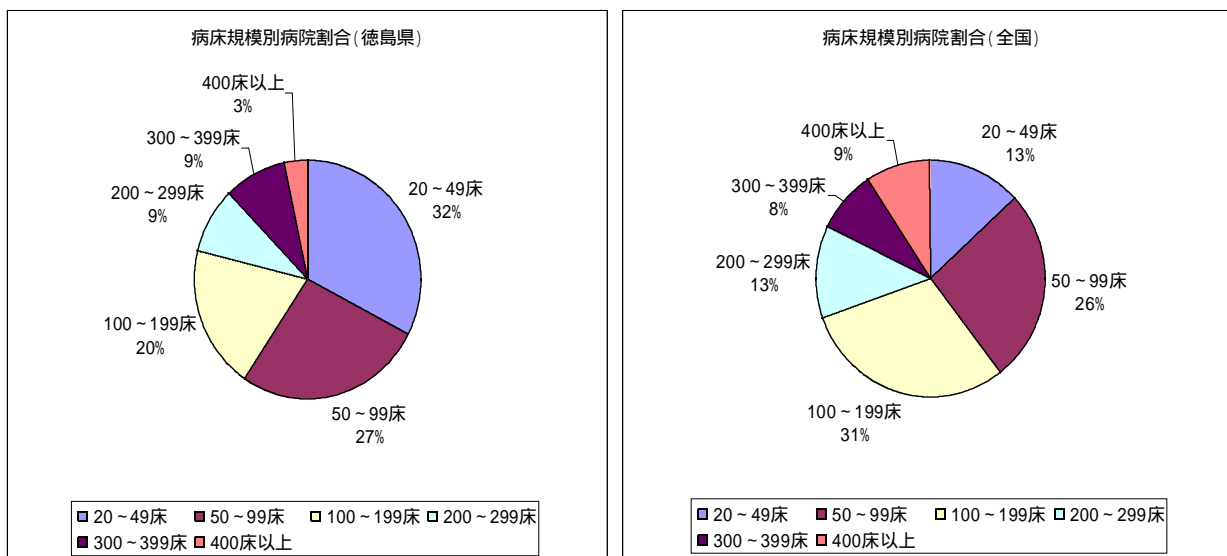
資料「医療施設調査」(厚生労働省)



また、本県の病院については、20～49床規模の病院が32%、50～99床規模の病院が27%で、20～99床の規模の病院が全体の59%を占めています。

全国では、20～49床規模の病院が13%、50～99床規模の病院が26%であり、20～99床の規模の病院が全体の39%を占めています。

また、400床以上規模の病院は、全国が全体の9%に対し、本県では3%となっており、全国に比べ、本県の病院は、病床規模の小さい病院が多いことが分かります。



また、本県の病床の平均在院日数は、平成18年1年間の調査で全病床で48.7日で、全国平均の34.7日と比べ大幅に長く、全国で5番目に長くなっています（1番目は高知県、2番目は佐賀県、3番目は鹿児島県）。病床種別では、精神病床が446.9日と全国平均の320.3日を大きく上回り全国で2番目に長くなっています（1番目は鹿児島県、3番目は和歌山県）。

また、一般病床は21.5日と全国平均の19.2日より長くなっており、全国で12番目となっています（1番目は佐賀県、2番目は高知県、3番目は青森県）。

療養病床は161.0日と全国平均の171.4日より短くなっており、全国で25番目となっています（1番目は富山県、2番目は秋田県、3番目は沖縄県）。

しかし、療養病床のうち、介護療養病床は、298.8日と全国平均の268.6日より長くなっており、全国で19番目となっています（1番目は秋田県、2番目は沖縄県、3番目は奈良県）。

#### 平均在院日数の状況

(平成18年年間)

区 分	総数	一 般	療 養		精 神	結 核	感 染 症
				うち介護療養			
全 国	34.7	19.2	171.4	268.6	320.3	70.5	9.2
徳 島 県	48.7	21.5	161.0	298.8	446.9	55.9	-

資料 「病院報告」(厚生労働省)

本県の一般診療所総数は、平成18年10月現在、791施設で人口10万人当たり98.3と全国平均の77.2を大きく上回り全国第5位となっています（第1位は和歌山県、第2位は島根県、第3位は長崎県）。

そのうち、無床診療所は、602施設で人口10万人当たり74.8と全国平均の67.1を上回っています。また、有床診療所は、189施設で人口10万人当たり23.5と全国平均の10.1を大きく上回り全国第6位となっています（第1位は長崎県、第2位は大分県）。

その病床数は、2,979床で人口10万人当たり370.1と全国平均の125.1を大きく上回り全国第6位となっています（第1位は大分県、第2位は鹿児島県）。

また、歯科診療所は、433施設で人口10万人当たり53.8と全国平均の52.7より若干上回っており、全国順位は第7位となっています（第1位の東京都が83.2と大きく突出しています。第2位は大阪府で60.7）。

診療所施設及び病床の状況

(平成18年10月1日現在)

区 分	一般診療所施設数				歯科診療所
	一般診療所	一般診療所	左の病床数		
	(無床)	(有床)			
全 国	98,609	85,751	12,858	159,898	67,392
徳 島 県	791	602	189	2,979	433
東 部	477	356	121	1,903	276
東 部	86	68	18	284	43
南 部	115	93	22	361	58
南 部	23	22	1	4	12
西 部	46	30	16	253	23
西 部	44	33	11	174	21

資料「医療施設調査」(厚生労働省)

また、本県の療養病床については、病院、有床診療所合わせて133施設で、5,279床が整備されています。

療 養 病 床 の 状 況

(平成18年10月1日現在)

区 分	病 院		有床診療所施設数	
	施設数	病床数	施設数	病床数
全 国	4,243	350,230	2,171	21,584
徳 島 県	72	4,796	61	483
東 部	46	3,267	39	241
東 部	6	480	5	45
南 部	10	502	9	111
南 部	0	0	0	0
西 部	5	188	6	58
西 部	5	359	2	28

資料「医療施設調査」(厚生労働省)

### 3 介護施設の状況

#### 介護老人福祉施設数・介護老人保健施設数の推移

各年10月1日

		H12	H13	H14	H15	H16	H17
介護老人福祉施設	全国	4,463	4,651	4,870	5,084	5,291	5,535
	徳島県	48	50	54	55	55	57
介護老人保健施設	全国	2,667	2,779	2,872	3,013	3,131	3,278
	徳島県	48	49	50	50	50	50

資料：介護サービス施設・事業所調査(厚生労働省)

#### 介護老人福祉施設・介護老人保健施設の定員の推移

各年10月1日

		H12	H13	H14	H15	H16	H17
介護老人福祉施設	全国	298,912	314,192	330,916	346,069	363,747	383,326
	徳島県	2,739	2,915	3,098	3,158	3,206	3,336
介護老人保健施設	全国	233,536	244,627	254,918	269,524	282,513	297,769
	徳島県	3,844	3,915	4,025	4,025	4,025	4,025

資料：介護サービス施設・事業所調査(厚生労働省)